

(様式6)

豊島幸子氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題目 Seroprevalence of measles and rubella antibodies and the effects of health education in high school students evaluated using antibody titer measurements
(高校生における麻疹・風疹抗体保有状況と教育効果)
Japanese Journal of School Health (in press) Vol.9: 1-10, 2013
Yukiko Toshima, Junko Nakajima-Shimada

論文の要旨及び判定理由

世界保健機関や厚生労働省は麻疹ゼロを目指した取り組みを行っているが、いまだ根絶されていない。群馬県では、2007年に218人にのぼる麻疹の大きな流行（研究対象となった高校でも7人の感染）があった。そこで、本研究は、高校生の①麻疹・風疹抗体保有率を把握し、②感染症と免疫に関する健康教育の効果を分析することを目的とした。

研究は、S高校の生徒1,155人を対象として2008年および2010年に行われた。抗体価測定希望調査を行った学年のうち、測定を希望して測定が実施された生徒（測定群）は563人、希望せず実施されなかった生徒（未測定群）は358人であった。測定希望調査を行わなかった学年（対照群）は234人であった。抗体価測定群での抗体保有率は、麻疹83.5%、風疹80.4%であり、WHOが麻疹根絶のため設定した目標値である95%以上には達していなかった。

研究対象者全員に感染症についての健康教育「感染と免疫の基礎知識」を行い、健康教育の前後で、5項目からなるアンケート調査を行った。また、抗体価測定群の生徒には健康教育実施時に測定結果を返却し、結果の見方を説明した。対象者全員でのアンケート調査の平均点（5点満点）は、健康教育前3.38点から教育後4.29点に増加した（ $P < 0.0001$ ）。前後の点数の増加は、抗体価測定群で1.14点、未測定群で0.72点、測定希望調査を行わなかった対照群で0.64点であった。抗体価測定群では、基礎的な免疫の知識に関するすべての項目で理解度が高まり、未測定群や対照群と比べて理解度の改善割合は有意に高かった。また、抗体価に関する項目では、未測定群でも対照群より理解度の割合は高いものであった。このことは、測定群に抗体価測定結果を返却した際に、未測定群の生徒も同席して抗体価についての説明を聞いたことが、理解の向上につながったと考えられた。一方で、健康教育実施後も得点が0点のままの生徒が33人（2.9%）いた。この理解度が低かった生徒への有効な対策が今後の課題として残った。

本研究は、豊島氏の勤務校における麻疹流行への対応の経験が動機となっている。地域の健康問題について現状を把握し、抗体価測定を健康教育に取り入れることで教育効果を高めることができるのではないかという作業仮説を、対照群を設定した観察的疫学研究で

検討している。まさに、疫学の原点ともいえる研究内容である。本研究から得られた結果は、いくつかの制限はあるが地域で活用できる有用なものと言える。また、当研究は、文部科学省科学研究費（奨励研究）のみならず、群馬大学大学院循環型保健学リーダーの育成プログラムにも採択されている。その成果として、保健教育にかかわる地域の教育者・養護教員などに調査・研究の重要性を示した「感染症対策マニュアルー学校保健教育者向けー」を作成し、地域の教育機関に配布された。

このように、本研究は保健学での優れた研究と認められ、博士（保健学）の学位に値するものと判定した。

（平成25年8月16日）

審査委員

主査	群馬大学大学院教授 生体情報検査科学講座	林 邦 彦	印
副査	群馬大学大学院教授 看護学講座	伴 野 祥 一	印
副査	群馬大学大学院教授 看護学講座	佐 光 恵 子	印

参考論文

- 1.健康相談活動における養護教諭のアセスメントの特徴に関する研究ー看護家庭におけるアセスメントとの比較を中心にー
学校健康相談研究 4: 44-52, 2007
豊島幸子
- 2.養護教諭の職務への自己効力感の要因ー自己効力感尺度（試案）を用いてー
日本養護教諭教育学会 12: 77-86, 2009
豊島幸子、吉田亨

(様式6, 2頁目)

最終試験の結果の要旨

研究デザインおよび作業仮説について、麻疹・風疹の予防接種の医学的意義について、および学校における健康教育について、試問し満足すべき解答を得た。

(平成25年8月16日)

試験委員

群馬大学大学院教授 生体情報検査科学講座	林 邦 彦	印
群馬大学大学院教授 看護学講座	伴 野 祥 一	印
群馬大学大学院教授 看護学講座	佐 光 恵 子	印

試験科目

研究デザインおよび作業仮説について	<input checked="" type="radio"/> 合	<input type="radio"/> 否
麻疹・風疹の予防接種の医学的意義について	<input checked="" type="radio"/> 合	<input type="radio"/> 否
学校における健康教育について	<input checked="" type="radio"/> 合	<input type="radio"/> 否

(様式7)

平成〇〇年〇月〇〇日
(論文の審査要旨と同じ日付)

群馬大学大学院保健学研究科長 殿

主査 群馬大学大学院教授
林 邦 彦 印

副査 群馬大学大学院教授
伴 野 祥 一 印

副査 群馬大学大学院教授
佐 光 恵 子 印

学 位 論 文 審 査 委 員 会 報 告 書

1 氏 名 豊 島 幸 子

1 主論文

Seroprevalence of measles and rubella antibodies and the effects of health education in high school students evaluated using antibody titer measurements

(高校生における麻疹・風疹抗体保有状況と教育効果)

1 参考論文

健康相談活動における養護教諭のアセスメントの特徴に関する研究—看護家庭におけるアセスメントとの比較を中心に—

学校健康相談研究 4: 44-52, 2007

豊島幸子

外 2 編

1 審査結果

A

平成25年8月16日審査委員会を開き主題の論文につき審査の結果、上記のとおり判定議決しましたので報告します。

(様式8)

平成25年8月16日

群馬大学大学院保健学研究科長 殿

委員 群馬大学大学院教授
林 邦彦 印

委員 群馬大学大学院教授
伴 野 祥 一 印

委員 群馬大学大学院教授
佐 光 恵 子 印

博士後期課程最終試験成績報告書

氏名 豊島幸子

試験科目	研究デザインおよび作業仮説について	<input checked="" type="radio"/> 合 <input type="radio"/> 否
	麻疹・風疹の予防接種の医学的意義について	<input checked="" type="radio"/> 合 <input type="radio"/> 否
	学校における健康教育について	<input checked="" type="radio"/> 合 <input type="radio"/> 否

平成25年8月16日試験を行い、上記のとおり判定しましたので報告します。